

スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ

2007(平成19)年8月28日鑑賞(試写会・なんばパークスシネマ)

★★★★★



監督・脚本＝三池崇史／出演＝伊藤英明／佐藤浩市／伊勢谷友介／香川照之／堺雅人／小栗旬／安藤政信／石橋貴明／木村佳乃／クエンティン・タランティーノ／桃井かおり／松重豊／塩見三省／石橋蓮司／田中要次／内田流果（ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント 配給／2007年日本映画／121分）

……三池崇史監督が「世界標準」として放つ、全編英語劇の「スキヤキ・ウエスタン」は、ただ今ベネチア国際映画祭に出品中。マカロニ・ウエスタンへのオマージュを捧げつつ、ジャンゴ vs. 伊藤英明の対比と、スキヤキ・ウエスタン風の源平のモノノフたちのキャラを大いに楽しもう。そして、ストーリー形成の核となる木村佳乃と桃井かおりの2人から、決して目を離さないように……。



これぞオリジナル！ これぞ三池監督の到達点！

岩井俊二監督の『スワロウテイル』（96年）は、これぞオリジナル！ これぞ岩井俊二監督の到達点というすばらしい映画だった。

私は、三池崇史監督作品の『IZO（以蔵）』（04年）（『シネマルーム6』222頁参照）も『46億年の恋』（06年）（『シネマルーム12』299頁参照）も、ワケがわからない映画として、あまり評価していない。また、『ゼブラーマン』（03年）、『着信アリ』（04年）、『妖怪大戦争』（05年）（『シネマルーム9』316頁参照）も全然評価していない。それは、彼が主張したいことの波長が私の感覚と全然合わなかったためだろうが、今回の『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』は全く別。

私は単なるパロディものや奇をてらった喜劇モノはもともとあまり好きではない。したがって近時の、松本人志監督の『大日本人』（07年）や北野武監督の『監督・ばんざい！』（07年）も全然評価していない（『シネマルーム15』410～421頁参照）。そこで、さて『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』はと、かなり身構えて試写会場へ行

ったのだが……？

この映画は決して単なるパロディではないし、受けを狙ったギャグで笑いを誘うものでもなく、れっきとした、欲望にうごめく人間模様と男たちの壮絶な闘い、そして LOVE の切ない物語……？ したがって、この『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』は、これぞオリジナル！ これぞ三池監督の到達点！

英語の達者な人は……？ 苦手な人は……？

かつて、黒澤明や溝口健二などの巨匠は、ベネチア国際映画祭、カンヌ国際映画祭等の常連だったし、最近も、北野武監督は「世界のキタノ」として君臨している。

さらに、今年のカンヌ国際映画祭では『殲の森』(07年)の河瀬直美監督が大注目。このように、日本映画の世界での評価は高いが、所詮そのネタは日本的だし、セリフも1億3000万人しか理解できない日本語。既に経営や金融の世界ではグローバル化が進み、日本標準ではダメとされ、すべからく世界標準に合わせて切磋琢磨しているにもかかわらず、映画製作においては、今なお島国ニッポンは閉鎖的……？

そこで、三池崇史監督は日本発、世界標準の『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』については、全編英語劇にすることに。すると面白いのは、俳優としての実力の他、必然的に英語能力が問われるようになったこと……。

まず、帰国子女である木村佳乃は『ドリーム・クルーズ』(07年)でも全編英語のセリフをスムーズにこなしていたように、全く問題なし。また桃井かおりは、既に『SAYURI』(05年)で英語劇は経験済みだから、彼女も問題なし。また、映画の冒頭に野盗役で登場する SMAP の香取慎吾や、この映画の主役であるガンマンを演じる伊藤英明は、さすがに若いだけあって英語の飲み込みも早く達者なもの。

それとは対照的に、英語は多少苦手なのかなと心配になったのが、平清盛を演じるあの演技派佐藤浩市の英語の発音。したたかな暴君という清盛のキャラも多分に影響しているとはいえ、そのジャパニーズ風の発音が目についた(耳についた)のは私だけ……？

サブちゃん演歌は国境を越え、時代を超え……

この映画の注目点の1つは、演歌の大御所北島三郎が主題歌『ジャンゴ～さすらい～』を歌っていること。ちなみに、これは英語ではなく日本語の曲だが、君はこの

「ジャンゴ」を知っている……？

『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』は、1960年生まれの三池崇史がその盟友（？）である1963年生まれのクエンティン・タランティーノも参加させ、1960～70年代にかけて世界的に大ヒットしたマカロニ・ウエスタンにオマージュを捧げつつ、いかにも日本的かつ三池的なストーリーをつくりあげたもの。したがって、マカロニ・ウエスタンを知らない今の20代、30代の人には、まず①レオーネ監督、クリント・イーストウッド主演、エンリオ・モリコーネ音楽による『荒野の用心棒』（64年）、②『夕陽のガンマン』（66年）、③『続・夕陽のガンマン／地獄の決闘』（67年）というマカロニ・ウエスタン「3部作」を観てもらふ必要がある。その上で、次はイタリア人俳優フランコ・ネロが主演した『続・荒野の用心棒』（66年）も必見。彼が引きずっている棺桶の中に入っていたのがガトリング銃。そして、この主人公の名前こそが原題となっていた「ジャンゴ」。つまり、「ジャンゴ」とは、いわばマカロニ・ウエスタンを象徴する名前なのだ……？

かつて私の持ち歌であった、サブちゃんの名曲『風雪ながれ旅』を彷彿させる（？）、切々と歌いあげられるジャンゴの悲哀をかみしめながら、はるか昔、かの地でくり広げられた源平の戦いとさすらいのガンマンの生きザマをじっくりと味わいたいものだ。今やこの三池崇史作品によって、北島演歌は国境を越え、時代を超えて……。

坂和流楽しみ方 その1——よく練られたキャラを楽しもう

この映画は1つ1つ評論していけば、バカ長くなることは必至。そこで、ストーリー紹介や人物紹介は極力避け、この映画の坂和流楽しみ方をいくつか示しておきたい。その第1は、よく練られたキャラをタツプリと楽しむこと。

かつて『壇の浦夜枕合戦記』（77年）という映画があった。これは、壇の浦を中心とする源平の戦いを舞台とした日活ロマンポルノの名作。『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』では、まず最初にユタ（湯田）村を「占領」した平清盛（佐藤浩市）を総大将とする平家と、後から侵入してきた源義経（伊勢谷友介）を総大将とする源氏の対決が描かれるが、メインはそれではなく、第3の男である謎のガンマン（伊藤英明）の動向。

また、黒澤明監督の『七人の侍』（54年）と同じように、ストーリー形成において大きなポイントになるのが虐げられてきた先住民たちの生きザマ。その第1は、夫ア



©2007映画『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』製作委員会（セディックインターナショナル／ジェネオンエンタテインメント／ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント／電通／テレビ朝日／小学館／エー・チーム／メ〜テレ／東急レクリエーション）

キラ（小栗旬）、息子平八（内田流果）と暮していた静（木村佳乃）。正義漢のアキラを清盛に殺された静は、今源氏に身を寄せているが、そんな彼女の狙いはナニ……？

第2は、源氏・平家のどちらを助っ人しようかと迷っているガンマンに対して、「焦ることはない」とアドバイスした、清盛から「ババア」と呼ばれているルリ子（桃井かおり）。あなたはきっと、後に彼女が「血まみれ弁天」と呼ばれる伝説のガンウーマンだったことがわかり、ビックリするはず……？ とにかく、この2人の先住民の女性がこの映画のストーリーを形づくっていくから、そのキャラにご注目！

その他、清盛を支える側近は、忠義に生きる闘将平重盛（堺雅人）。他方、義経を支える側近は、凶気の化身、与一（安藤政信）や情深き豪傑弁慶（石橋貴明）たちだが、それぞれのキャラをタップリと楽しみたいもの。また特筆すべきは、権力と己に怯える、日和見主義者の保安官（香川照之）。彼は当初平家についていたものの、源氏が登場してからは、どちらにつくべきか思案の毎日だが……？

坂和流楽しみ方 その2——スキヤキとマカロニの対比を楽しもう

この映画の冒頭には、クエンティン・タランティーノ監督がえらくカッコいいガンマン役で登場し、なぜこの映画が「スキヤキ・ウエスタン」なのかを語る役割を……？ その説得力をどう見るかはあなた次第だが、てっきりこれで「お役御免」と思っていると、さにあらず。ラスト近くになって再度彼が重要な役として登場するから、お見逃しなく……。

棺桶とその中に入っているガトリング銃のネタが、『続・荒野の用心棒』にあることは先に書いたとおりだが、これを含めたマカロニ・ウエスタンのスキヤキ風アレンジの出来ばえは……？

また、マカロニ・ウエスタン最大の特徴はガンさばきの見事さだが、それをきっちり継承したうえで特に義経が見せる日本刀へのこだわりは、まさにスキヤキ風……。すると、最後に生き残ったガンマンと義経との銃と刀による対決は、まさにマカロニとスキヤキを融合させた傑作……？

坂和流楽しみ方 その3——埋蔵金伝説にワクワク

かつて、仲代達矢、中村錦之助、丹波哲郎らの『御用金』（69年）という面白い映画があったが、平家の落ち武者の住む村に、平家再興のための埋蔵金が隠されているというのは、いかにもありそうな話……？

アメリカで有名な「ゴールドラッシュ」とは、1848年、アメリカ西部のカリフォルニア州のアメリカン川で、農場主ジョン・サッターの使用人ジェームズ・マーシャルが砂金を発見したことに端を発したものだ。これによって、カリフォルニアには金鉱脈目当ての山師や開拓者が殺到することになったらしい。平家再興のための埋蔵金もそれと似たようなものの……。

この映画の基本ストーリーは、そんな埋蔵金伝説によってユタ村に集まってくる人々の欲。その点は平家も源氏も同じだ。武力の対比では明らかに源氏の方が上なのに、源氏が平家を追い出そうとしないのは、平家に埋蔵金を掘りあてさせたうえで、それを横取りしようという高等戦術のためらしい。また、保安官がどっちつかずの等距離外交をとっている（？）のも、最後の勝利者を目指しているため。すると、謎のガンマンの狙いも同じ……？ どちらにつけばいくらの山分けという商談にガンマン

が興味を示しているところを見ると、ついそう思ってしまうが、さて……？

そんな埋蔵金伝説を前提として、それを誰が掘りあててるのかに興味ワクワク……。いくら掘ってもどこからも出てこなかった、という肩すかしは絶対ないはずだから、一体どれくらいのお宝が掘りあてられるのかにも注目したいが……。

坂和流楽しみ方 その4 ——『平家物語』の文学的視点からも……

私たち団塊の世代の大人は、中学・高校の時、『平家物語』のお勉強として「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす。驕れる者も久しからず、ただ春の夜の夢の如し。猛き者もついには滅びぬ、ひとえに風の前の塵に同じ」というフレーズを何度も聞いたことがあるはず。また、源平合戦をテーマとしたたくさんの映画や耳なし芳一の物語などでも、このフレーズは耳に残っているはず。しかし、この映画ではじめて聞く英語のフレーズは何とも新鮮……？

大の日本びいきであるクエンティン・タランティーノ監督は、このフレーズの意味をホントにわかっているのかもしれないが、合理主義者で力信仰の強い欧米人には、こんな無の境地、哀れの境地というのは理解しにくいのでは……？ ところが『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』では、何といてもこの『平家物語』のフレーズが大テーマだから、表面上に見える埋蔵金をめぐる男たちの戦いについても、『平家物語』の文学的視点から検討する必要がある……。

印象的な演技 その1 ——香川照之の一人芝居

この映画で重要な役柄を担った俳優陣の多くは、それまで全く経験したことのない奇妙な服装で、奇妙な役柄を、難しい英語を操って演じたはず。したがって、その演技論を書き始めるとこれもキリがなくなるが、私の印象に残った3人の演技についてのみ少し触れておきたい。

その第1は、何といても香川照之の一人芝居で、これは圧巻！ 日和見主義者のこの保安官が利害を見定めながら動くのは当然で、それは必ずしも悪いわけではない。総理大臣として小泉内閣に次ぐ歴代第4位の在任期間を誇り、80歳を超えてなお釈然と政治を語る大元勲中曽根康弘は、小派閥であるがゆえに常に田中派の顔色をうかがいながら、風見鶏と呼ばれた政治家。風を読むことは政治家にとって大切な素質だが、それは保安官だって同じ……。

香川照之が面白いのは、自分の中に存在する源氏派・平家派2人の人格を1人で演じ分けたこと。それは、鏡を見ながらの問答であったり、自分の左右の手でほっぺたをひっぱたく実行使であったりするわけだが、源平2大勢力の中に埋没しようとする自分の立場をしっかりと認識した上でのその悩みの演技は見事なもの。

さらに、馬に乗った平家の侍からロープで引っ張られたり、清盛の銃の盾として利用されたりというさまざまな難関を乗り越えて、あわや最後の勝者というレベルまで生き残ったのは大したもの。もっとも、最後には正義の鉄槌が下るのが、マカロニ・ウエスタンにもスキヤキ・ウエスタンにも共通する哲学だが……。

印象的な演技 その2——木村佳乃の艶技

三井住友銀行のCMで大胆に白い太股を見せている木村佳乃は、どちらかということも清純派で、色気に乏しく、迫真のベッドシーンを演じた役はないはず……？ ところが、この『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』では、まず清盛から夫を殺され、力まかせに抱かれたうえ、源氏の家に逃げ込んだ後は義経にも抱かれるという、何とも哀れな役を色香タップリに演じている。そのうえ、「この女はいくら？」とガンマンから聞かれた静は、与一とガンマンとの争いが収まったあと、喜々としてガンマンとベッドの上に……。そのベッドシーンの淡白さはちょっとガッカリだった(?)が、義経をはじめとする源氏の面々が見守る中、身体をくねらせて踊り回る木村佳乃がはじめて魅せる艶技は絶品！

印象的な演技 その3——気持ち悪い弁慶はどうも……？

私はもともと、とんねるずの石橋貴明はあまり好きではないが、この映画の前半で豪傑弁慶がみせる演技はそれなりのものだった。しかし、総大将義経の了解を得ることなく、ガンマンに復讐しようとする与一の策略に乗ってしまった弁慶は義経の怒りを買って、男の大切なタマを切り取られてしまうことに……。

その結果、オカマ弁慶となってからの演技はちょっと気持ち悪いもの。それは義経自身も同じだったとみえて、艶かしく(?)言い寄ってくる弁慶に対して、義経は情け容赦なく拳銃の弾を……。こんなアホバカバラエティー向きのシーンは、ちょっと余分だったのでは……？

伊藤英明の代表作に……

『陰陽師』(01年)、『陰陽師Ⅱ』(03年)に出演し、『海猿』3部作では主役を張っているのが、今や日本の若手トップ俳優に成長した伊藤英明だが、クリント・イーストウッドバリ、あるいはフランコ・ネロばりの、愁いに満ちた無頼のガンマンのキャラは、かなり難しかったはず。また、早撃ちの二丁拳銃をカッコ良くさばき、馬にまたがった姿を最高にカッコ良くみせる演技も大変だったはず。まあ、主役を張るのだからそれくらいはできて当然という面はあるものの、よく頑張ったことはまちがいない。この演技を見れば、『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』が伊藤英明の代表作になるのでは……？



『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』DVD レンタル中
発売：ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント
/セディックインターナショナル
販売：ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

ベネチア国際映画祭の結果に注目しよう！

2007年8月29日から9月8日(現地時間)まで、イタリアでは第64回ベネチア国際映画祭が開催されている。そのコンペティション部門には22作品が出品され、『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』もその中の1つ。

日本映画は第54回の北野武監督の『HANA - BI』(97年)を含めて過去3度金獅子賞を受賞しているが、さて『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』は4度目の栄冠に輝くことができるだろうか……？ 三池監督は海外での評価が高いうえ、『スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ』は最初から世界標準を狙った作品だから、ひょっとして……。私も大いに応援したいものだ。

2007(平成19)年8月29日記